

経営比較分析表（平成29年度決算）

兵庫県 福崎町

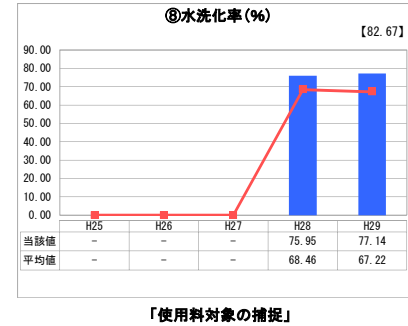
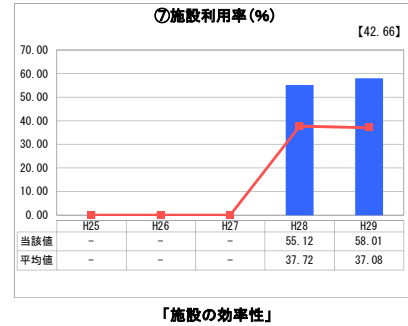
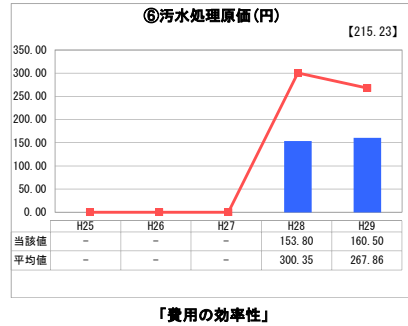
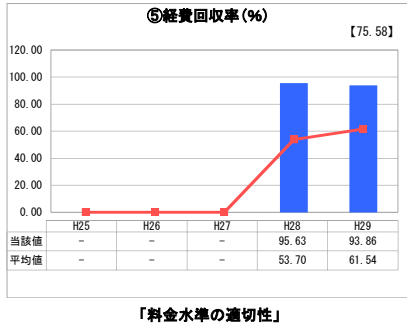
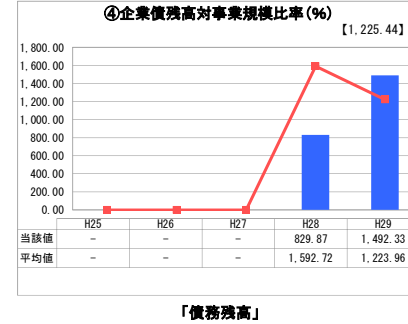
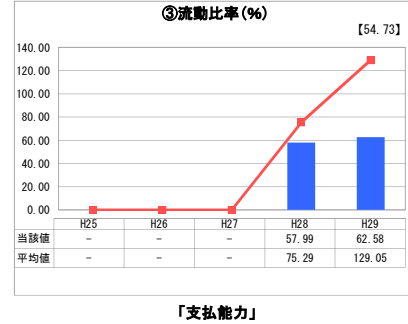
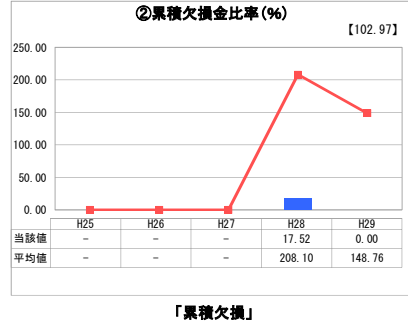
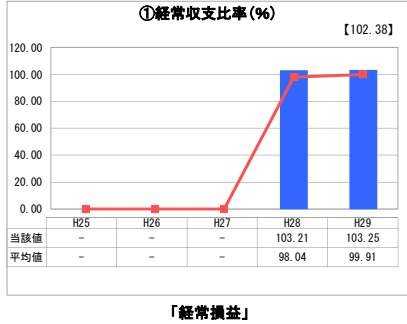
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家賃料金(円)
-	29.37	37.22	98.47	2,400

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
19,390	45.79	423.45
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
7,195	2.78	2,588.13

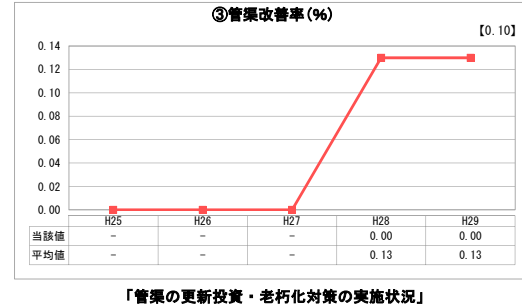
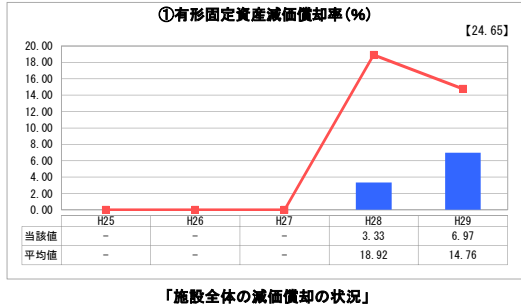
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成28年度から特定環境保全公共下水道事業に地方公営企業法を適用した。
 ①経常収支比率は100%に達しているが、使用料だけでは経費を賄うことができて一般会計からの繰入金に依存している状況である。
 ②累積欠損比率は0となり、法適用前の債務超過による欠損金は解消している。
 ③流動比率は100%を下回り、類似団体の平均値より低い数値となっている。これは流動負債の企業債償還金が多額となっているためである。
 ④管渠整備は概成し、今後は施設更新に係る借入れが予想されるものの、償還額が増えていくことから企業債残高は減少する見込みである。なお企業債に対する公費負担割合の影響により、前年度との差が大きくなっている。
 ⑤汚水処理原価は類似団体より低く、膜処理方式の採用により効率的な稼働が図られていると考える。これに伴い⑤経費回収率は類似団体より高く、目標の100%に近い数値となっている。
 ⑥水洗化率は類似団体より高い数値であるものの、70%台となっており、今後は継続推進し数値を上げていく必要がある。⑦施設利用率としては工業団地の接続が進んだ影響もあり上昇している。

2. 老朽化の状況について

管渠、処理場ともに平成15年から整備を開始し、平成17年に供用開始した。比較的新しい施設であるが、処理場の機械設備等で耐用年数が短いものについては、ストックマネジメント計画を策定し計画的に更新していく。

全体総括

平成27年度に汚水の主要な整備が完了し、今後は雨水整備が本格化するともに、企業債の償還額が増大しピークを迎えていく中で、一般会計からの繰入金への依存が高くなる見込みである。不足する財源については、財政課との協議により一般会計から繰入金を確保しつつ、資本費平準化債や保有の基金等を活用しながら計画的な事業運営を図る必要がある。また維持管理費においても使用料で賄えず一般会計からの繰入金に依存しているため、今後は使用料計定の時期等を検討する必要がある。あわせて経費回収率や施設利用率の改善に向けて、継続推進を図るとともに、経費の節減に努める必要がある。投資に関しては、施設の更新や農業集落排水の統合等も視野に入れ中長期的な計画に基づき推進していく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。